

アメリカ西海岸短期海外研修報告

～ シアトルとその周辺 ～

越 智 学*

1. はじめに

本校では、昭和60年(1985)から、毎年夏期休暇を利用し、短期海外研修を実施している。今までは高校1年生がその対象であったが、平成8年度からはその対象を中学3年生から高校2年生へと広げた。さらに業者主催のプログラムではあるが学校行事と位置付け本校独自の短期研修(ホームステイプログラム)を組んで実施することにした。

対象枠を広げたことにより、平成8年度は中3生5名、高1生29名、高2生6名の計40名の参加者となった。予想以上の参加者で、引率者が英語科教員だけでは賄えないとのことで、筆者はこの引率者に選ばれたのであった。

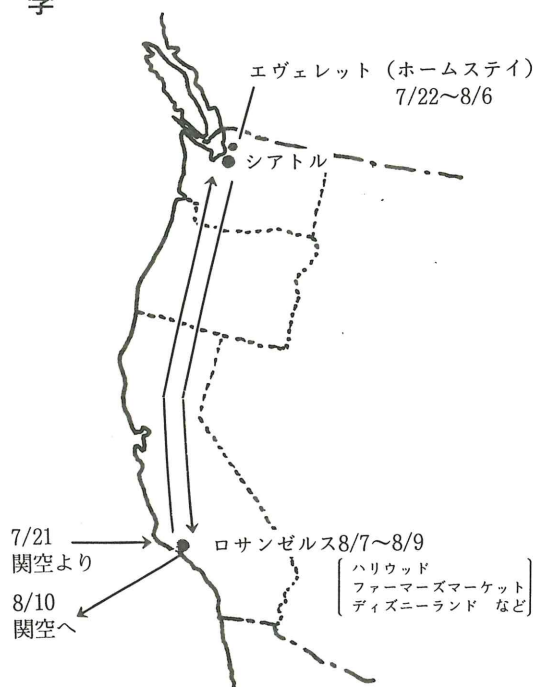
生徒たちの引率が主目的で、生徒たちと同じようにホームステイプログラムをこなしてきたが、その合間に見聞きしてきたことをいくつか紹介したい。

2. ホームステイ地エヴェレット

今回の短期研修は、7月21日から8月11日までの3週間で、そのうち7月22日から8月6日までの16日間がいわゆるホームステイ期間であった(第1図)。私が滞在したのはシアトル北方約50kmの位置するエヴェレットという小都市であった。

現地で知ったことであるが、ここにはボーイング社のエヴェレット工場があり、主力商品のジャンボジェット機B-747やB-767、さらに最新鋭のB-777(トリプルセブン)を製造している。ワンルーフの建造物では世界最大で、ギネスブックにも記載されている工場である(写真1)。

幸運にもホームステイ先で知り合いになった人を通じて工場見学ができた。広大な敷地ゆえ、バスでジャンボ機の製造プラントへ移動した。入り口から見学用地下道を300mくらい歩いてエレベーターで一気にな



第1図 研修旅行日程とコース



写真1 ボーイング・エヴェレット工場(自動車の中から)

昇しプラント内に出た。そこからは眼下に、薄緑がかったアルミニウムに被われた機体に各種部品を接合したり、組立てている様子が手に取れるように見られた。説明や質疑、応答など全て英語で、ほとんど理解できなかったが世界最大のスケールを実感でき大変な感動であった。ただ企業秘密のため、場内の写真・ビデオ

*松山東雲高校

等撮影が厳禁であったのがとても残念であった。

3. シアトルダウンタウンとその近郊

ホームステイ中、土曜や日曜日はホストファミリーと一緒に過ごすことになっていた。私がお世話になったホストファミリーは、夫婦と子供2人の4人家族で

ある。とても活動的で、夕食後バスケットをしたり、ボーリング場へ出かけたりしていた。

7月28日、ホームステイ最初の日曜日。シアトルに連れていってくれるという。遅い朝食（いわゆるブランチ）を取り昼前に家を出発した。インタステート5号線（通称I 5^{アイフアイブ}）という州幹線道路（フリーウェイ）



第2図 シアトルとその周辺



写真2 シアトルダウンタウンの高層ビル群
(スペースニードル展望台デッキより)

で約40分、シアトルの高層ビル群が見えてきた（第2図）。

市街地のインターチェンジから一般道に入り、ビル群の中を走った。アメリカ市街地の道路網はどこでもそうだが、整然とした直線の道路が縦横に通っている。暫く市街地の中を走った後、シアトル・センターに到着した。ここは、1962年に「21世紀」をテーマに開催された世界大博覧会の会場跡地で、約31万㎡の広大な敷地内に、スペース・ニードルをはじめ約50の施設がある。スペース・ニードルとは、高さ約180mのタワーで、高さ150mにある展望台がUFOを思わせるような円盤型をしていてシアトルのシンボリック的存在となっている。

ここで、自由時間をもらいスペース・ニードルの展望デッキへ上った。デッキは硝子越しでなく直接外へ通じており、少し気味が悪かったが、そこからダウンタウンの高層ビル群、広大なピュージェット・サウンド（湾）や、そこを行きかうフェリーなどを眼下に見降ろすことができる（写真2）。

シアトル・センターで3時間余り過ごした後、今後は車で20分くらいのところにある、シップ運河に到着した。当初、そこがどういうところか全く判らず、到



写真3 チッテンデン水門（大）で繋留中の船舶、上流のワシントン湖側へ移動中。背後（下流側）には開閉橋が遠望できる



写真4 チッテンデン水門（小）を利用しているクルーザー。下流のピュージェット・サウンド側へ移動中。

着するなり下流にみられた開閉鉄橋の方に目を奪われてしまった。肱川に架かる長浜の開閉橋によく似ていたからである。この橋は1時間に数回の間隔で昇降を繰り返し、自動車や貨物列車と下を通る船との通行調整を行っていた。

見学して判ったのだが、シップ運河はいわゆる閘門式運河で、パナマ運河のミニチュア盤のような運河である。この運河の西にチッテンデン（バラード）水門

があり、ここで海外のピュージェット・サウンド側と内海のワシントン湖側の異なる水位を調整している。

中央のコントロールタワーをはさんで、大小2つの水門があるが、小さい水門では数分で水位が上昇したり下降し、繋留していたクルーザーなどの小型船舶の浮上や沈下が間近に見ることができた（写真3、4）。

もう一つ目に止まったのが、水門の南側に作られたフィッシュ・ラダー（魚の階段＝魚道）である。毎年6月から9月の産卵期になるとベニザケやキングサーモンなどがこの階段を上り、海から湖へ帰っていくそうであるが、訪れたこの日もかなり多くのサケ類の遡上を見ることができた。しかも水族館のように、水中からガラス越しに眺められるように工夫されていた。自然へのやさしさと観光の両面を生かした施設だと思った（写真5）。

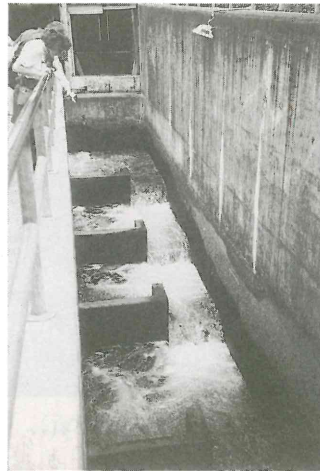


写真5 フィッシュ・ラダー（魚道）。合わせて21もの階段が造成されている。

この日は夏期休暇中の日曜日ということも相まってどこの見学地も親子連れなどでいっぱいであった。しかし、日本のように駐車場が満車で時間を取ったり、順番待ちということは全くなく、計画的で有意義な半日であった。

翌29日からレンタカーを借りた。当初は不安で借りるかどうか迷っていたが、車を運転することにより、日本と正反対の交通システムに慣れることも必要だと思いチャレンジした。今考えれば、今回の短期研修で得た貴重な体験であったと思う。

そのレンタカーで、シアトルへも出かけてみた。8月3日土曜日、時間が取れたので、一人で再びシップ運河へビデオ撮影に行った。連れていってもらった時

は、シアトルセンターからほんの20分程で行けたが地図のみを頼りに自分で運転していくと案の定迷子になってしまった。道を聞くと、とても丁寧に説明してくれるが、全て英語で返ってくるので理解しづらい。親切な人に会い道案内をしてもらってようやく運河に着くことができた。1時間以上のロスタイムであった。

その後、市街地に向かいウォーターフロント沿いに車を走らせた。この道路（アラスカン・ウェイ）には旧式のストリートカー（ちんちん電車）が走っている。また、海に突き出したピア（埠頭）が番号順に続いている。本来船舶などの発着地であるが、中にはシアトル水族館（ピア59）やベイパビリオン（ピア57）などの建物もみられ観光客で賑わっていた。又、この週はシーフェスタ（海の祭典）が催されており、この道路を中心に人と車であふれ返っていた（写真6）。

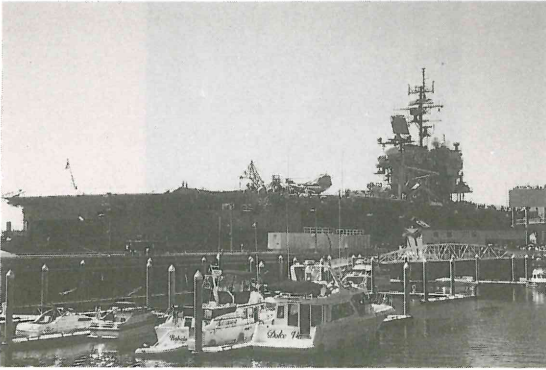


写真6 ウォーターフロント（ピア64付近）。シーフェスタのため空母が停泊中。

日時は異なるが、ホームステイプログラム中にもシアトル市内の見学も2日間組まれており、シアトルセンターをはじめ、ダウンタウンの見学、郊外にあるワシントン大学、ウッドランドパーク動物園などの見学も行った。また、シアトル水族館の近くの小高い丘の通りには、パイク・プレイスマーケットという大きな市場があり、新鮮な果物や花卉、魚介類などを直販している。ここも市民や観光客で混雑していた。

4. 結びにかえて

今回の海外研修は、短期と言えども約3週間に渡るもので、私の旅行の中では一番長期に渡るものであった。しかし、終わってみればとても充実したホームステイで、アメリカ人の日常生活に少しは触れてきた感もする。また、ホスピタリティというアメリカ人の他国の人に対する厚いもてなしの精神に、学ぶべきところがいろいろあると思った。

エヴェレットでのホームステイ期間中、シアトルとその近郊には、合わせて5回も行くことができ、シアトルがとても身近な街になった。初心者でも安心して行くことのできる街である。興味深い所もまだまだあるようだ。また機会があれば訪れてみたい。